

笑顔と笑顔がこだまする まちづくり 「長成えいど」

【下関市長成中学校区】

地域の概要

長成中学校区には、長府駅を中心として、四王司山裾野に広がる新興住宅街と海側の工場群、郊外型商業施設などがあり、1中学校1小学校の校区です。

新興住宅地・古くからの地域ともに、地域住民の参画意識は強く、潜在的なボランティアの数は多いと考えられます。

人口	13,234人	
世帯数	5,995世帯	
対象校及び	長成中学校	289人
児童・生徒数	長府小学校	520人

組織の内容

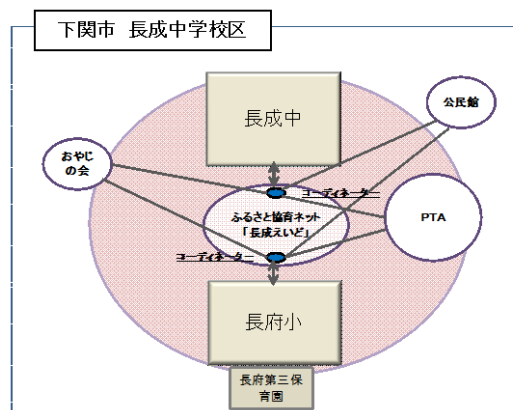
○「長成えいど」の目的・理念

目的は、地域全体で学校教育を支援する体制を推進することにより教職員の子どもたちと向き合う時間を十分に確保することと、住民等の学習成果や知識技能等の活用機会の充実及び地域の教育力の活性化を図ることです。

長成中学校区のふるさと協育ネットの名称は、「長成えいど」です。「えいど」とは、英単語の“AID”からきています。単語の意味の「助ける・手伝える・援助する」を基本にしつつ「笑顔いっぱいどんなときも『えいど、えいど』（方言「ええど」をもじって）」を合言葉に活動しています。

長成中学校・長府小学校ともに、平成22年度はそれぞれで学校支援地域本部事業に取り組んでいました。その手応えを元に、平成23年度からは、同じ中学校区で連携して進めていこうとしています。まずは協議会を一本化し、どんなことから連携ができるのか探っています。協議会の構成は、各学校長と担当教員、PTA会長と教育後援会と地域から自治会、育成協議会、体育協会、婦人会、保護司会などの代表、及びコーディネーターから構成されています。もともと、地域本部を構成していたメンバーで、再編にはあまり苦労しませんでした。学校は二つでも地域は一つだと改めて実感しました。コーディネーターは、各学校に1名ずつと統括的な役割を持つ1名の計3名です。また、各学校で取り組んできた学校支援に関しては、継続して取り組んでいます。

これまでも、1中学校1小学校という校区の特性を生かして、陸上部の顧問と部員が小学校陸上記録会前の練習に出前講座で来校したり小学校の教員が中学校の夏休みの補習に参加したりと、小・中学校の連携活動が以前から盛んでした。特に地域の祭り「長府ふるさと祭り」は小学校を会場に行われますが、会場の準備・後片付けは中学生が担っています。こうしたもともとあった素晴らしい取組を起点に、さらに小・中学校が一体となった教育活動の支援を促進していきたいと思えます。



ネット協議会の構成	学校関係者	5名
	地域団体関係者	6名
	PTA関係者	3名
	自治体関係者	7名
コーディネーター数		3名
登録ボランティア数		116名



主な活動の紹介

○長府小学校

- 1 環境整備
 - * 夏休み除草作業(P T A 主催に地域の方も加えて)
- 2 読み聞かせ
 - * P T A 主体の「てぶくろ」は朝学時間に、公民館中心に活動している「野苺文庫」はゲストティーチャーとして
- 3 ゲストティーチャー
 - * ミニ門松作り
 - * 校医による出前授業
 - * 川遊びや芋づくり



○長成中学校

- 1 環境整備のサポート
 - * 「花いっぱい運動推進」の花苗の植付けと管理
 - * 生け花で校内美化 [週 1 回]
 - * 花壇作りと土手の種まきと管理
 - * 校内施設の整備 [中庭の改装]
- 2 校内図書館の地域開放と運営サポート
 - * 本のカバー貼り、整頓、館内の清掃
 - * 週 1 回の本の貸し出し
- 3 学習サポート
 - * 特別支援学級での学習補佐
 - * 校外学習の引率
 - * 職場訪問の連絡と依頼



○学校・家庭・地域が一体となった「ふるさと祭り」

- * 小学校；出し物で参加、ポスター作りなど
- * 中学校；会場準備と後片付けの生徒ボランティア
- * この事業をきっかけに、P T A がより積極的に参画したり、新たなイベントを仕掛けたりと活性化



今後の取組

これまでの2年間の取組で、学校が地域に開かれるメリットを学校・家庭・地域それぞれの立場で、実感できたように思います。

十分なりソースがある校区だと言うことを再認識しましたので、今後は新しいことを始めるのではなく、今までであったことを整理したり、もう少し発展させたりといった自然なスタンスで取り組む中で、多くの地域の方を巻き込んでいきたいと思います。特に「長府ふるさと祭り」はその最適な場だと考えます。地域が主体となっている祭りですが、今後さらに学校との連携・協働を図っていきたいと思います。そして、その絆を縁に、新たな人間関係・イベント・仕組みなどを育てていけたらと思います。

また、これまで行ってきた小中連携の取組を充実させるとともに、地域にある幼稚園や保育園へ小中学生が訪問し交流を図るなど、ネットワークを更に広げ、広く地域の子どもたちを見守って行けたらと思います。

コーディネーターさんにインタビュー

Q：コーディネーターとして一番心がけていることは何ですか？

A：調整役に徹することです。はじめから学校の要望と地域の願いが一致することはそうそうありません。できるだけ時間を作って、お互いの話を聞くことで折り合いをつけられたらいいなと思っています。

Q：コーディネーターをしていて、一番うれしいことは何ですか？

A：地域のみなさんが、学校の応援団としてはつらつと活躍している姿を見ることです。